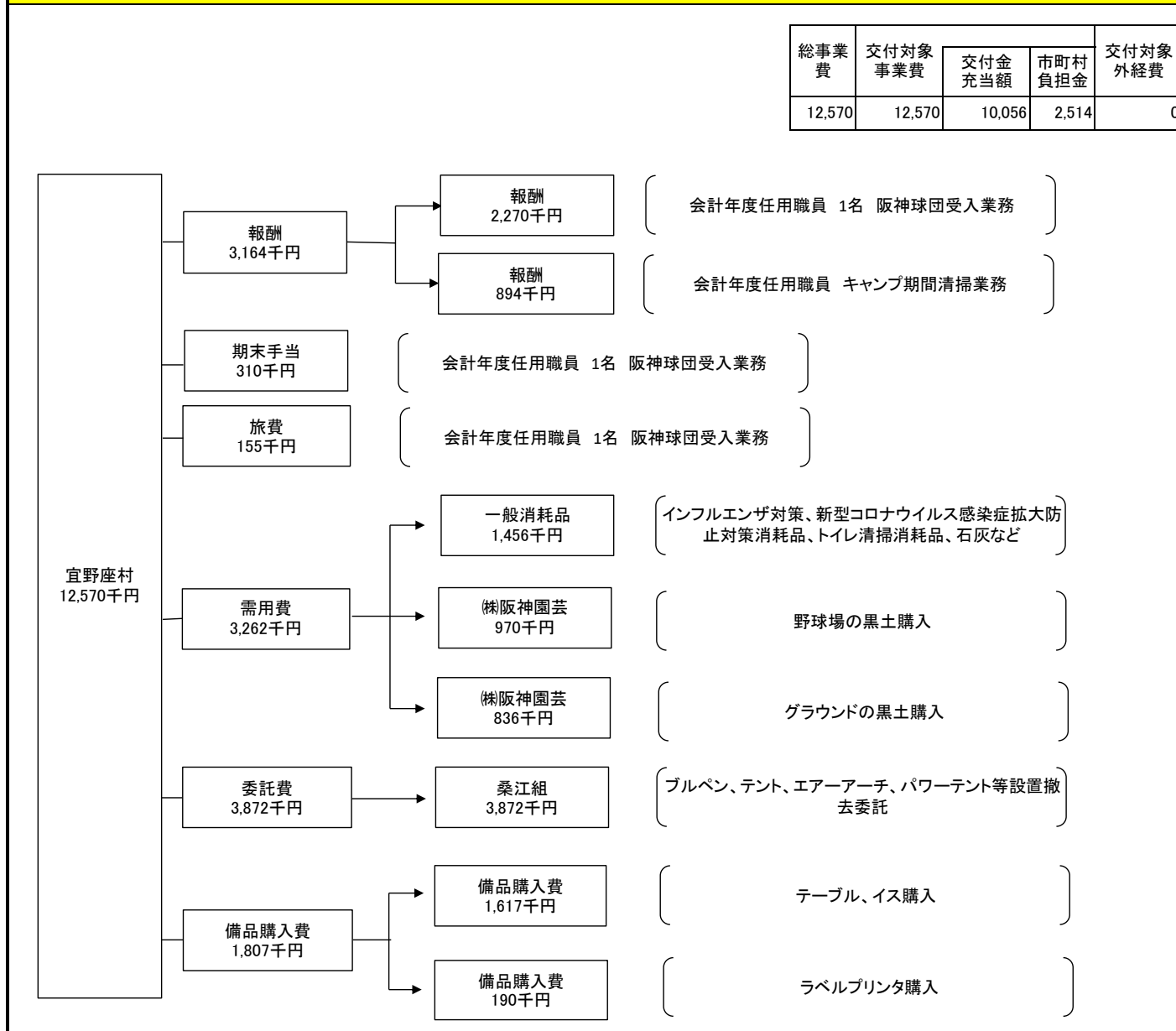


市町村名		宜野座村									
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	1-①		阪神タイガース春季キャンプ受入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ					
	担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備					
事業内容	阪神春季キャンプ受入による観光誘客を図るため、球場仮設ブルベンの設置やグラウンド黒土搬入等を行う。										
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)										
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度	
		(a)当初予算額	9,412	9,783	9,783	9,783	9,588	12,639	9,588	12,639	0
	(b)予算現額	9,412	9,783	9,783	9,783	9,588	12,639	9,588	12,639	0	0
	(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(d)繰越額										
	A.計(b+d)	9,412	9,783	9,783	9,783	9,588	12,639	9,588	12,639	0	0
	B.執行済額	9,412	9,611	9,272	9,410	12,571	7,530	7,688	7,417	7,527	10,056
	うち交付金充当額	7,530	7,688	7,417	7,527	10,056					
	次年度繰越額										
	執行率(%) (B/A)	100.0%	98.2%	94.8%	98.1%	99.5%					
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施したので適正であったと考えている。不用額については委託費や備品購入費の入札残や人件費の残、消耗品数量の減などによるものである。										
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況								
			H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		
	阪神春季キャンプの受入体制の構築 ・野球場防球ネット、エアアーチ、テント、テント等設置		目標	仮設ブルベン(防球ネット)エアアーチ	仮設ブルベン(防球ネット)エアアーチ	仮設ブルベン(防球ネット)エアアーチ	防球ネット(エアアーチ)テント等設置				
			実績	設置完了	設置完了	設置完了	設置完了				
	・野球場、総合グラウンド黒土搬入		目標	野球場、総合グラウンド黒土搬入	野球場、総合グラウンド黒土搬入	野球場、総合グラウンド黒土搬入	野球場、総合グラウンド黒土搬入				
			実績	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了				
・キャンプ会場の衛生管理		目標	( )	( )	( 衛生管理 )	( 衛生管理 )					
		実績			衛生管理実施	衛生管理実施					
達成状況説明	<p>・選手及び見学者が安全・快適に練習・見学ができるよう、防球ネット、歓迎エアアーチ、歓迎のぼり、パワーテント、テント等を設置したほか、清掃員や警備スタッフ等を配置し、球場内外の整備を行った。</p> <p>・阪神タイガースの合同自主トレ、春季キャンプの環境整備を図る為、野球場・総合グラウンドの黒土入替を実施した。</p> <p>・選手が安心してキャンプに取り組めるよう、衛生品準備やインフルエンザ・新型コロナウイルス感染症対策も実施したほか、キャンプ期間中だけでなく、年間を通し調整を行い、球団との関係を築いた。</p> <p>・有観客でのキャンプ開催を予定していたが、沖縄県独自の緊急事態宣言により、無観客での開催となった。</p>										
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)				
	阪神春季キャンプ見学者数(人)		目標	( )	( 85,000人 )	( 86,000人 )	( 87,000人 )	( )			
			実績		100,100人	80,800人	0人				
	【参考指標】		目標	( )	( )	( )	( )	( )			
			実績								
進捗状況説明	沖縄県独自の緊急事態宣言により、阪神春季キャンプは無観客での開催し、見学者数の実績は0人となり、目標値を達成することができなかった。当初有観客での開催を想定していたため、感染症拡防止対策を取りながらの受入体制を構築していた。										

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・今年度は、沖縄県独自の緊急事態宣言の発令により、無観客での開催となったが、当初は有観客での開催を予定していたため、感染症対策を行いながらの受入体制を構築はできた。</p> <p>・無観客での開催となったが、過去5年平均観客動員数は10万人を超えているため、阪神タイガース春季キャンプは本村でもっとも大きな観光資源となっている。今後もキャンプ地としての利用を継続してもらうため、球場整備や選手・ファンの安全確保、交通事故防止等に取り組む必要がある。</p>	<p>・感染症対策を行いながらの受入体制を構築はできたが、練習環境の整備やファンサービスの感染症対策を取りながらの実施方法等について検討する。</p> <p>・引き続き野球場等の黒土入れ替え、選手・ファンの動線管理、球場内外の警備や誘導員の配置、臨時駐車場の設置、シャトルバス運行を実施し、安全・快適なキャンプ場整備に努める。</p>
	<b>今後の取り組み方針</b>	
<p>・感染予防として手洗いの徹底を呼びかけるほか、トイレや観客席、練習見学場所、手洗い場等に消毒用アルコールを設置する。また、感染症対策を取るよう注意喚起も実施しながら、事前に球団と調整し、安心安全にサイン会やファンサービス等が実施できるよう対策を検討する。</p> <p>・今後もキャンプ地として、選手及びファンが安心安全・快適に利用できるよう受入体制を構築するほか、球団や村観光協会、村商工会と通年で連携を取り、村全体でキャンプ地として盛り上げるよう取り組む。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>・予算規模については、見積りを徴取して積算しており、適正な規模であった。</p> <p>・費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
○			

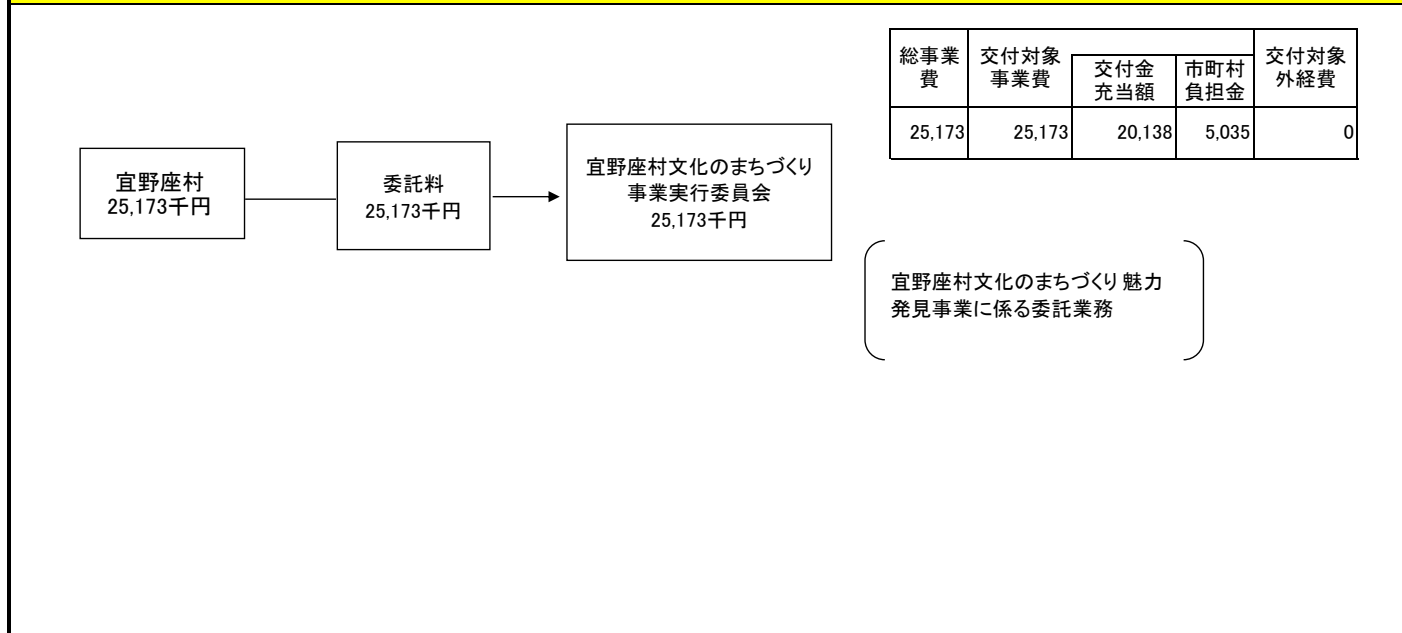
市町村名		宜野座村				
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	1-②	宜野座村文化のまちづくり魅力発見事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ウ	
	担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化コンテンツ産業の振興 Ⅲ-3-(2)
事業内容	村民が質の高い芸術公演に触れる機会の確保及び、村外からの誘客を図るため、宜野座村文化センターがらまんホールを中心に芸能文化・伝統芸能公演等を実施する。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
		(a) 当初予算額	18,000	16,000	65,000	30,000
	(b) 予算現額	18,000	16,000	65,000	29,934	25,188
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	▲ 66	▲ 4,800
	(d) 繰越額	—	—	—	—	0
	A. 計(b+d)	18,000	16,000	65,000	29,934	25,188
	B. 執行済額	18,000	16,000	65,000	29,934	25,173
	うち交付金充当額	14,400	12,800	52,000	23,947	20,138
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.9%
予算の状況の説明	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、事業計画内容を一部変更したため、事業費を減額した。変更後、計画していた事業内容はほとんど実施できたため適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)	達成状況				
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	(がらまんホール公演) 「伝統芸能」「音楽コンサート」「創作演劇」「ワークショップ」など様々な芸術文化・伝統芸能公演を開催する。(7回以上)	目標	( 31回 )	( 30回 )	( 17回 )	( 7回 )
		実績	37回	30回	18回	7回
(お出かけ公演) 教育施設、福祉施設、観光施設等で文化事業を行い、文化芸術を通して交流できる芸術普及及び活動を行う。(6回以上)	目標	( 6回 )	( 20回 )	( 11回 )	( 6回 )	
	実績	23回	20回	17回	3回	
達成状況説明	<p>・がらまんホール公演については、大人の音楽会、食の文化講座、光の美術展など、観客が密にならず新しい生活様式に即した芸術文化・伝統芸能公演を計7回実施できた。</p> <p>・お出かけ公演については、新型コロナウイルス感染症の影響により下半期に計画していた公演が中止となったため、村内児童を対象とした「お出かけ大道芸公演、ヨーヨー体験教室、オリガミワークショップ」の計3回のみ開催となり、目標回数を達成することはできなかった。</p>					

成果目標 (指標) 及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値 (年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値 (R4年度)
	①芸術文化・伝統芸能公演の集客数	目標	( ) ( )	( 3,000名 )	( 2,520名 )	( 1,038名 )	( )
		実績		13,990名	7,119名	1,745名	
	②お出かけ公演対象者数	目標	( ) ( )	( 5,000名 )	( 5,250名 )	( 2,625名 )	( )
実績			6,032名	4,624名	583名		
進捗状況説明	①芸術文化・伝統芸能公演については、当初予定していた音楽コンサートや文化フェスティバルなど多くの事業が中止となったが、約1か月間開催した光の美術展には1,553名と想定よりも多くの来場者が訪れたことにより、目標値に達することができた。 ②お出かけ公演については、多くの来場者を見込んでいた宜野座村まつり公演がなくなったため、大幅に目標値を下回る結果となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、次年度も引き続き次の点に留意して事業を実施する必要がある。 ①芸術文化・伝統芸能公演においては、劇場への入場者の人数制限などの対策を講じるにより、鑑賞者及び芸術文化に触れるの機会が減少している。 ②お出かけ公演では、一度の対象人数を減らすなどの対策をとる。	①人数制限などの対策によって減少した芸術文化に触れる機会の損失を、会場からのライブ映像配信を行うことにより、劇場とメディアによる相互効果で鑑賞者及び鑑賞機会の増大を図る。 ②コロナ禍においても対応できるお出かけ公演を充実させ、様々な施設での開催を検討する。

今後の取り組み方針
①村民が偏りなく多彩な芸術文化・伝統芸能に触れる機会を確保するために、その環境づくり(配信における著作権、機材、配信回線等の問題)を検証し、実施していく。 ②新型コロナウイルス感染症の影響により、次年度のお出かけ事業も以前と同様に行うことは困難だが、これまでに培った芸術文化による交流を絶やさぬよう工夫して継続的に取り組んでいく。 令和3年度はコロナ収束後の後年度に集客へ繋げる取り組みとして映像配信を実施し、動画配信サイトYoutubeを活用して国内外へ発信した。令和2年度の実績を令和3年度目標値の参考基準とし、再生回数の向上に努めていく。映像配信では、アーカイブのみに限らず、多様な文化コンテンツを発信していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先である実行委員会は、村内の各種団体の関係者で構成する委員で、文化センター設立以来、がらんホール事業の企画を行っており、委託先は妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業額を内容通り遂行したため、適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○使途について額の確定時(完了検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村				
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	1-③	宜野座村着地型観光誘客推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部署名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
事業内容	宜野座村への観光誘客を図り、着地型観光を推進するため、観光誘客プロモーション活動や年間を通したイベントの開催、観光関連人材の育成等を行う。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	(a) 当初予算額	35,000	35,000	49,759	49,650	73,372
	(b) 予算現額	34,741	37,160	48,387	47,834	71,736
	(c) 増減額(b-a)	▲ 259	2,160	▲ 1,372	▲ 1,816	▲ 1,636
	(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	34,741	37,160	48,387	47,834	71,736
	B. 執行済額	34,741	37,160	48,387	47,834	71,736
	うち交付金充当額	27,793	29,728	38,710	38,267	57,388
	次年度繰越額					
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明	当初予定していた、事業の一部を新型コロナウイルス感染症の影響により変更(関西圏プロモーションの中止、関東圏プロモーションの一部変更、沖縄県内プロモーションの増、観光プログラム開発費の増、)したため、事業費1,637千円を減額した。 事業内容は計画通り実施し、適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)	達成状況				
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	観光誘客プロモーション活動の実施(関西地域、関東地域、沖縄県内、団体誘致等)	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )
		実績	実施	実施	実施	実施
	・観光プログラムの開発事業の実施	目標	(            )	(            )	( 実施 )	( 実施 )
		実績			実施	実施
	・観光人材育成事業の実施	目標	(            )	(            )	( 実施 )	( 実施 )
		実績			実施	実施なし
	年間を通したイベントの開催(3回)(村内)	目標	( 3回 )	( 3回 )	( 3回 )	( 3回 )
		実績	3回	3回	3回	3回
外部専門家(アドバイザー)招請によるSNSなどの活用による情報発信の検証と、発信技術の向上を図る。	目標	(            )	( 外部専門家事業 )	( 外部専門家事業 )	( 外部専門家事業 )	
	実績		情報発信力強化に向けた取り組みを実施	情報発信力強化に向けた取り組みを実施	情報発信力強化に向けた取り組みを実施	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光誘客プロモーション活動については、ノベルティの作成や各種媒体を活用した情報発信を実施した。県内においては、コロナの影響で物産フェアは中止となったが、youtube動画やラジオの配信、モノルールでの中刷り広告等に取り組んだ。県外においては、コロナの影響でプロモーションは中止となったが、観光PRブースの設置、スポーツツーリズム誘致に取り組んだ。</li> <li>・観光プログラムの開発事業については、周遊サイクルモニター事業の継続やフォトコンテストの実施、団体向けのプログラムの造成、観光WEBや宜野座ポイントの構築に取り組んだ。</li> <li>・観光人材育成事業については、講師を招聘し、資源発掘講座を予定していたが、コロナの影響で実施を断念した。</li> <li>・年間を通したイベントの開催については、道の駅ぎのぎフェスティバル、ぎのぎワンダフルDAY、宜野座村フラワーガーデン事業を実施した。</li> <li>・外部専門家事業については、SNS等を活用した情報発信に向けた情報収集(アンケート)の内容、PR時の手法、観光ブランドイメージ等について助言を受け、情報発信力の強化を実施した。</li> </ul>					

成果目標 (指標) 及び進捗状況	R2成果目標(指標)	基準値 (年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値 (年度)	
	宜野座村の観光入客数(25万人)	目標	( )	( 24万人 )	( 24.5万人 )	( 25万人 )	( )
		実績		27万人	24万人	14.5万人	
	【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )	( )
実績							
進捗 状況 説明	令和2年度の宜野座村の観光入客数は14.5万人となり、目標を達成することができなかった。 達成できなかった要因としては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による外出自粛などが考えられる。						

取組の 検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、緊急事態宣言や外出自粛要請等の影響により観光入客数が激減した。アフターコロナを見据え、youtube動画やラジオの配信や観光PRブース設置事業、観光プログラムの開発等、コロナ禍で取り組める誘客活動を行った。</li> <li>コロナ禍でも取り組める誘客活動やプロモーションを引き続き検討、強化していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍でも取り組める、誘客活動やプロモーション活動の継続や、プログラムの開発を図る。</li> <li>これまで関西を中心に展開してきたPR活動・誘致活動の対象地域を拡大し、プロ野球春季キャンプシーズンだけでなく通年をとおした観光誘客に繋げる。</li> <li>観光情報発信やラジオ・動画配信の強化に取り組む。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>観光誘客プロモーションのPR活動範囲を拡大し、関東圏でのプロモーション活動の強化する。また、北信越地方でのスポーツツーリズム誘致活動も引き続き行い、北海道でのプロモーション活動をついかさる。</li> <li>ラジオ・動画配信事業を継続し、引き続き道の駅ぎのざを起点に村内周遊を促して、地域経済への波及を図る。</li> <li>子ども向けの体験事業を新たにを取り組み、誘客効果を高める。</li> <li>道の駅「ぎのざ」でのイベントを増強することで誘客効果を高める。</li> </ul>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	71,736	71,736	57,388	14,348	0
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>宜野座村</b> 71,736千円         </div> → <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> <b>委託料</b> 71,736千円         </div> → <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> <b>宜野座村観光協会</b> 71,736千円         </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光誘客プロモーション事業</li> <li>観光プログラム開発実施事業</li> <li>観光人材育成事業</li> <li>イベント事業</li> <li>外部専門家活動事業</li> </ul>				

資金 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>委託事業者は、本村に特化した観光振興を担う事業所となっており、その目的、成果達成に向けて委託先の選定は妥当であったと考える。</li> <li>事業額について、当初の目的に沿って遂行したため、適正な規模であったと考える。</li> <li>使途については、事業目的達成の観点から内容を確認し、適切であった。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		宜野座村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑤ 宜野座村文化センターがらまんホール機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(5)-ウ			
	文化コンテンツ産業の振興		沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-3-(2)			
担当部課名	観光商工課		事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度				
事業内容	宜野座村文化センターがらまんホールの更なる利用促進による文化振興及び観光誘客を図るため、監視モニター、音響、映像等のデジタル機材を設置し、施設の機能強化を行う。							
効果発現年度	□当年度      ■後年度(令和4年度)							
実施方法	■直接実施    □委託    □補助    □負担    □その他( )							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額					25,989	35,091
		(b) 予算現額					18,900	33,253
		(c) 増減額(b-a)					▲7,089	▲1,838
		(d) 繰越額					0	0
		A. 計(b+d)					18,900	33,253
	B. 執行済額						18,900	33,253
	うち交付金充当額						15,120	26,602
	次年度繰越額						0	0
	執行率(%) (B/A)						100.0%	100.0%
予算の状況の説明		減額については、指名競争入札による入札残である。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	常設音響システム整備の実施		目標 ( - )	( - )	デジタルモニターシステム導入	デジタル音響システム導入		
		実績			導入完了	導入完了		
達成状況説明		当初計画のとおり、宜野座村文化センターがらまんホールにデジタル音響システム(一式)を設置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R4年度)	
	常設音響システムの整備完了		目標 ( )	( - )	(完了)	(完了)	( )	
			実績		完了	完了		
	【R4成果目標】年間入場者数19,475人以上		目標 ( )	( - )	( - )	( - )	(19,475人)	
			実績		18,548人	14,426人	6,027人	
進捗状況説明		宜野座村文化センターがらまんホールにおいて、デジタル音響システムの設置を完了した。年に一回実施している保守点検において「以前の音響システムと比べ、ノイズの解消や明瞭度の向上とともに聴感上の音質が向上したこと、プログラミングによる音響操作が可能になった」ということが報告されていることから、音響システムを機能強化することができた。成果目標は、これまでのがらまんホールの利用者数をもとに、事業が完了するR3年度の翌年にあたるR4年度利用者数の目標数値として作成している。令和3年度までは各種デジタル機器設置作業により、ホールが利用できない日数や新型コロナウイルス感染症の影響で断続的な休館日を設ける可能性があるため、利用者数の減が予想される。						

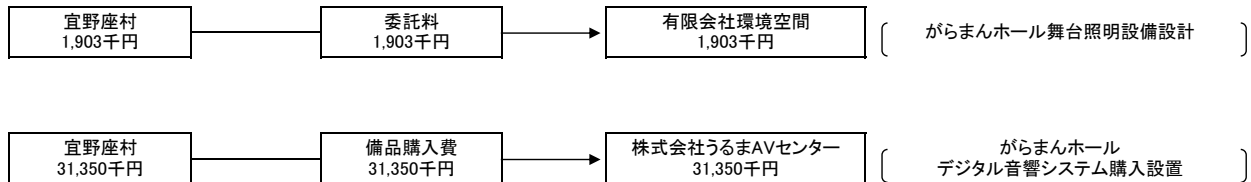
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>デジタル音響システムの設置が完了したものの、コロナ禍により計画していた公演をやむなく中止または規模縮小(人数制限)による開催となったため、令和2年度の入場者数が当該年度以前と比較して激減した。</p> <p>舞台照明設備の機能強化については、工事に係る総事業費が約2億円かかることが判明し、財源の確保が課題となった。</p>	<p>当初は、R3年度に照明機能の高度化を計画していたが、工事費の財源確保が困難であることや、コロナ禍において映像配信による公演が昨今の劇場のスタンダード手法となっていることを鑑み、照明設備の機能強化よりも映像配信機器を優先的に整備し、無観客であっても文化の魅力発信を実施するとともに入場者数の減少を閲覧回数で補い、舞台芸術の鑑賞機会を増やしていく。延いては、コロナ収束後の利用者増および当施設の知名度の向上に繋げる。</p>

**今後の取り組み方針**

宜野座村文化センターがらまんホールの総合的な機能強化を図り、入場者数増を目指す。ただし、今後も新型コロナウイルス感染症の影響により、3密を避けることがイベント開催条件となることが予想され、入場者数の制限等、運営方法について検討していく必要がある。また、収束まで長期間かかる場合は、目標値の見直しも必要となる可能性がある。コロナ収束後の利用者増を図るために、今後も本村の文化事業をオンラインを活用して国内外へ発信し、村の文化振興の中心的施設である当施設の各種機器の機能強化を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
33,253	33,253	26,602	6,651	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札により決定したため妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○競争入札を実施したことで、当初予算額よりも低価格で施設の機能強化を図ることができたため、事業内容に見合った適正な予算規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業完了後に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名	宜野座村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	農村沿道景観向上事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	令和元年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	魅力的な自然環境観光地を形成するため、リゾート観光客の散策路(農道)の美化に努める。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度			
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,974	5,222			
		(b) 予算現額	2,974	5,222			
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0		
		A. 計(b+d)	2,974	5,222	0	0	0
		B. 執行済額	2,974	5,222			
		うち交付金充当額	2,379	4,177			
		次年度繰越額	0	0	0		
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容は予定通り実施しており、適正であったと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度		
	美化作業員配置3名	目標	( 2名 )	( 3名 )	( )	( )	
		実績	2名	3名			
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	委託先である土地改良区が作業員3名を配置し、年間を通じて散策コース5ルートの草刈り及び伐採作業を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	安全で快適な散策ができたか(80%以上)を含め、観光客等に対するアンケートにより本事業の在り方を検証する。	目標	( )	( 80% )	( 80% )	( )	( )
		実績		未実施	80%		
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	昨年度に引き続き年間10件ほど寄せられていた苦情が、令和2年度においても0件であったため効果があったと考えられる。 また、元年度においてコロナの影響により実施することができなかったアンケートにおいては、令和2年度末に引き続きコロナ禍が継続している中ではあるがアンケートを実施した。 結果、80%の方に沿道の景観が「とてもきれい」との評価をいただいた。					

取組の検証	<b>推進上の留意点</b> (推進上の問題、外部環境の変化)	<b>改善余地の検証</b> (効率の更なる向上の視点)
	<p>・これまで宿泊施設周辺付近の農道・沿道においては雑草等が茂り景観が損なわれていたが、年間をとおして草刈り・伐採作業を実施することで観光地の景観形成が図られ、令和2年度の苦情件数は0件であった。</p> <p>・令和2年度に関しては、年度を通してコロナ渦という特殊な状況の中、観光客が激減しており成果を確認することが困難な状況となっている。</p>	<p>・昨年度より人員の増を行っており、熱中症対策や作用効率の面では改善されている。</p> <p>しかし、コロナの制限解除に備え引き続き事業を実施する必要があるが、ここまで情勢が変化すると、この状況の中では改善余地の検証が困難な状況である。</p>

<b>今後の取り組み方針</b>
・コロナの制限解除に向け、引き続き事業を実施していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

	総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
			交付金充当額	市町村負担金	
	5,222	5,222	4,177	1,045	0

**宜野座村**  
5,222千円

**委託料**  
5,222千円

**宜野座村土地改良区**  
5,222千円

・農道・沿道散策路ルート管理  
 ・農道・沿道美化作業

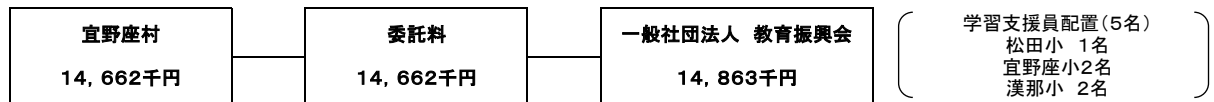
資金 使途の 流れ、 点検 評価 ・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・委託先の宜野座村土地改良区は、本村の土地改良施設の管理に携わっている団体であるため、その目的、成果達成に向けて委託先の選定は妥当であったと考える。</p> <p>・事業額について、当初の目的に沿って遂行したため、適正な規模であったと考える。</p> <p>・使途については、事業目的達成の観点から内容を確認し、適切であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	小学校学力向上対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部署名	教育課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3	
事業内容	学力の向上を図るため、教師と連携をとりながら授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を小学校に配置し、児童の学力に応じた個々の学習指導を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
		(b) 予算現額	13,440	15,360	15,360	15,399	25,089
	(c) 増減額(b-a)	13,440	13,440	13,218	13,493	17,088	
	(d) 繰越額	0	▲1,920	▲2,142	▲1,906	▲8,001	
	A. 計(b+d)	0	0	0	0	0	
	B. 執行済額	13,440	13,440	13,218	13,493	17,088	
	うち交付金充当額	13331	13440	13166	12,304	14,662	
	次年度繰越額	10664	10752	10533	9,843	11,729	
	執行率(%) (B/A)	0	0	0	0	0	
	予算の状況の説明	8名の学習支援員の配置を業務委託していたが、採用ができておらず、3月補正で8,001千円を減額した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	学習支援員配置数 松田小学校2名 宜野座小学校4名 漢那小学校2名		目標 ( 8名 )	( 8名 )	( 8名 )	( 松田小 2名 宜野座小4名 漢那小 2名 )	
			実績 7名	7名	8名	松田小 1名 宜野座小2名 漢那小 2名	
	【参考指標】 支援児童数		目標 ( 481名 )	( 492名 )	( 520名 )	( 493名 )	
			実績 478名	499名	511名	497名	
達成状況説明	8名の学習支援員の配置に対して5名の配置となったが、3小学校497名に対して教師と連携を図りながら支援を行った。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	沖縄県学力到達度調査において、平均正答率を県平均以上(差0ポイント以上) ・小学校3年・4年・5年・6年(算数)		目標 ( )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	( )
			実績	3年算数(-4.2) 4年算数(-1.6) 5年算数(-1.8) 6年算数(-2.7)	3年算数(-4.8) 4年算数(-5.0) 5年算数(-2.0) 6年算数(3.1)	5年算数(-1.7) 6年算数(3.5)	
	【参考指標】		目標 ( )	( )	( )	( )	( )
			実績				
	進捗状況説明	沖縄県学力到達度調査の実施学年が変更となったため、対象である小学校5年生及び6年生の結果をもとに成果を検証した。調査を実施した小学校6年生の算数においては昨年に引き続き県平均を3.5ポイント上回ることができたが、小学校5年生の算数においては県平均に届かなかったため目標は未達成となった。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染防止対策による臨時休校があったが、学習支援員を児童保育へ派遣し支援を行った。</li> <li>成果目標は未達成となったが、学校によっては小学校5年生、6年生の算数で県平均を上回るなど、状況が改善している学校もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県学力到達度調査等の結果を分析し、担任と連携しながら学習内容の定着に落ち込みがある単元に対する学習支援を重点的に行う必要がある。</li> <li>また、各学校においては春休みにも補習の時間を設けるなど、落ち込みのあった学習内容の取りこぼしがないように、学習支援の強化を図る。</li> <li>学習のつまづきなど、個々の児童の実態を把握し、習熟の度合いに合わせた問題(ドリルなど)の精選を行うことで、学力の向上を図る。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後や長期休業期間の補習指導については計画的・継続的・日常的な取組みを行い、各学年で身につけるべき学習の内容を確実に定着させるよう取り組む。</li> <li>ドリルや学習支援ソフト等を効果的に活用するなど、児童の学ぶ意欲の向上につながるよう指導改善に取り組む。</li> <li>定期的に研修会を行い、各学校における取組などの情報を学習支援員で共有することで、支援員のスキル向上を図る。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
14,863	14,662	11,729	2,933	201



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託業者をプロポーザル方式により選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模は、人件費及び管理費等を考慮し判断した結果、適正であると考えている。</p> <p>○生徒の学力向上を目的として支援員を配置しているため、目的に即し、必要だと判断した。委託料の支払いについては、出勤簿等を確認の上行っている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	中学校学力向上対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部署名	教育課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3	
事業内容	学力の向上を図るため、教師と連携をとりながら授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を中学校に配置し、生徒の学力に応じた個々の学習指導を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		(a)当初予算額	12,000	14,640	14,640	14,640	15,681
	(b)予算現額	11,200	12,151	14,640	14,770	12,681	
	(c)増減額(b-a)	▲800	▲2,489	0	130	▲3,000	
	(d)繰越額	0	0	0	0	0	
	A.計(b+d)	11,200	12,151	14,640	14,770	12,681	
	B.執行済額	11,200	12,151	13,343	11,343	11,738	
	うち交付金充当額	8,960	9,720	10,674	9,074	9,390	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	91.1%	76.8%	92.6%	
予算の状況の説明	当初5人の学習支援員の配置を業務委託していたが、途中退職により不用額が生じたため、3月補正で3,000千円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	学習支援員配置数等 宜野座中学校 5名 (英語、国語、数学、理科、社会各教科1名)		目標 ( 5名 )	( 5名 )	( 5名 )	( 5名 )	
			実績 5名	5名	5名	4名	
【参考指標】 支援生徒数		目標 ( 229名 )	( 206名 )	( 233名 )	( 232名 )		
		実績 223名	208名	234名	232名		
達成状況説明	当初は学習支援員を5名配置できたが、途中退職により4名の配置となった。中学校生と232名に対し教諭と連携をとりながら学習支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	沖縄県学力到達度調査において、平均正答率を県平均以上(差0ポイント以上) ・中学校2年(国語、数学、英語、理科、社会)		目標 ( )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	( )
			実績	中2国語(8.7) 中2数学(9.9) 中2英語(9.8) 中2理科(8.4) 中2社会(4.4)	中2国語(-0.4) 中2数学(-1.7) 中2英語(0.6) 中2理科(15.4) 中2社会(7.3)	中2国語(-3.3) 中2数学(-7.8) 中2英語(-6.0)	
	【参考指標】		目標 ( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	沖縄県学力到達度調査の実施教科が変更となったため、対象である中学校2年生の国語、数学、英語の結果をもとに成果を検証した。調査を実施した中学校2年生の国語、数学、英語については、全ての科目において県平均を上回ることができず、目標は未達成となった。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科担当と連携しながら、生徒の学力に応じた学習支援を行うことで学力の向上に取り組んだ。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症予防対策に伴う臨時休業などがあったことから、学習の定着に課題が残る。</li> <li>・国語、数学、英語の全ての教科で県平均を下回っているため、全体の支援強化が必要である。</li> <li>・漢字検定や数学検定などの各種検定受験を推奨し、生徒の学ぶ意欲を高めることに取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生徒の実態を把握し、個に応じた学習支援を強化することで、学力の基礎・基本の定着を図る。</li> <li>・教科担当と連携しながら、ICT機器を活用した授業を取り入れるなど、生徒の学ぶ意欲を高め、学力の向上を図る。</li> <li>・各種検定試験への取り組みを引き続き推奨し、生徒の学ぶ意欲を高める。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業における支援や放課後の補習等については、教科担当と連携しながら支援計画を立て、個に応じた支援に取り組む。また、長期休業期間(夏休みなど)はサマースクールなど補習指導の強化を図ることで、学力の定着及び向上を図る。</li> <li>・漢字検定や数学検定等の各種検定試験を積極的に取得させることで、生徒の達成感の醸成を図り、学力の向上に繋げる。</li> </ul>		

### 資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,218	11,738	9,390	2,348	480

<b>宜野座村</b> 11,738千円	→	<b>委託料</b> 11,738千円	→	<b>一般社団法人 教育振興会</b> 12,218千円
-------------------------	---	------------------------	---	---------------------------------

{

習熟度別学習支援員配置(4名)  
(国語、数学、英語、社会)

}

資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者をプロポーザル方式により選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、人件費及び管理費等を考慮し判断した結果、適正であると考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○生徒の学力向上を目的として支援員を配置しているため、目的に即し、必要だと判断した。委託料の支払いについては、出勤簿等を確認の上行っている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	幼稚園預かり保育事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章—5—(3)—ア		
担当部署名	教育課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ—3		
事業内容	保護者が就業中も安心・安全に子どもを預けることができる場を提供し、育児における負担感の軽減を図るため、村立幼稚園において預かり保育を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		7,360	7,360	7,360	11,550	14,233	
		7,360	6,248	9,080	11,550	11,942	
		0	▲1,112	1,720	0	▲2,291	
		0	0	0	0	0	
		7,360	6,248	9,080	11,550	11,942	
		7,250	6,248	8,488	10,474	11,942	
		4,666	4,998	6,790	7,920	9,553	
		0	0	0	0	0	
		98.5%	100.0%	93.5%	90.7%	100.0%	
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育担当者の無給休暇取得により、115千円を減額した。</li> <li>・預かり保育担当者を配置できなかった期間があったため、2,176千円を減額した。</li> </ul>						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)	達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	預かり保育担当職員配置数 松田幼稚園 2名 宜野座幼稚園 3名 漢那幼稚園 2名	目標	( 4名 )	( 6名 )	( 松田幼 2名 宜野座幼 2名 漢那幼 2名 )	( 松田幼 2名 宜野座幼 3名 漢那幼 2名 )	
		実績	4名	6名	松田幼 2名 宜野座幼 2名 漢那幼 2名	松田幼 2名 宜野座幼 3名 漢那幼 2名	
達成状況説明	目標	(    )	(    )	(    )	(    )		
	実績						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	安心・安全に子どもを預けることができ、育児の負担感が軽減されたと感じたか(80%)を含め、対象となる幼児の保護者へのアンケートを行い事業の在り方を検証する。	目標	(    )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	(    )
		実績		100%	100%	100%	
【参考指標】	目標	(    )	(    )	(    )	(    )	(    )	
	実績						
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象となる園児の保護者に対してアンケートを実施したところ、安心・安全に子どもを預けることができ、育児の負担感が軽減されたと感じた割合は100%となり、目標値を達成した。</li> <li>・通園する園児の世帯の内、約9割がフルタイムで就業しているため、担当者を7名配置できたことで、保護者へ午後の預かり先を提供でき、子育て世代の多様化するニーズに応えることができた。</li> </ul>						

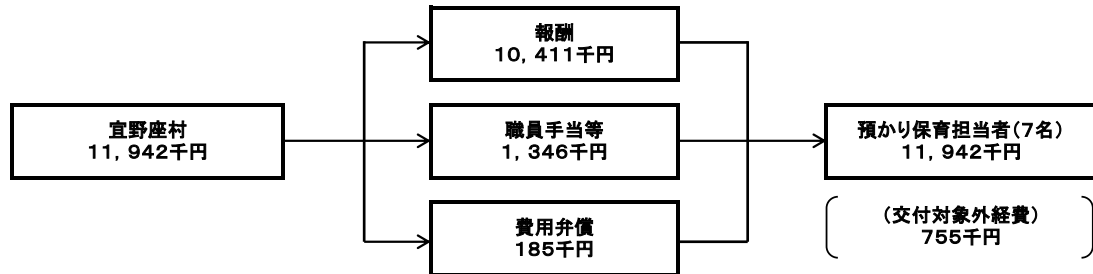
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各園に預かり保育担当者を配置できたことで、園児の安全を確保しながら保護者及び園児への柔軟な対応が可能となったため、保護者の多様なニーズに応えることができた。</li> <li>園ごとに利用者数や地域性が異なるため、実態に応じた柔軟なサービスの提供が必要である。</li> <li>家庭の事情や本人の特性などで、配慮が必要と思われる園児がいる。</li> <li>園児から目が離せない状況にあるため、幼稚園教諭と預かり保育担当者の情報共有に必要な時間の確保が難しい状況である。</li> <li>担当者の保育観がそれぞれ異なるため、保育の内容にばらつきが出ることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実態に応じた効果的なサービスを提供するため、専門家を招いた研修の充実を図る。</li> <li>配慮が必要な園児を観察し、幼稚園教諭へ報告・連絡・相談することで、小学校就学に向けた連携がスムーズに行えると考えている。</li> <li>情報共有ツールの作成等を研修等で検討する必要がある。</li> <li>預かり保育事業の内容や目的を確認し、同じ認識・知識をもって保育を実施するための取り組みを行う。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- 引き続き、実態に応じた効果的な遊びを提供できるよう、講師を招聘し、実践的な研修を実施する(年1回)。
- 充実したサービスを提供できるよう、担当者それぞれの困り感や日頃の保育内容を共有できる場として定期的な情報交換会を実施する。
- 引き続き幼稚園教諭と連携し、配慮が必要と思われる園児の様子を観察しながら情報共有を行い、小学校就学に向けた連携を行う。
- 預かり保育事業の内容や目的を確認し、一貫した預かり保育を実施できるよう、講師を招聘した研修会や実施要項を踏まえた勉強会等を開催する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
12,697	11,942	9,553	2,389	755



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○担当者の雇用については、地方公務員法第22条の2第1項第1号に基づき雇用しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○担当者の配置数については、宜野座村立幼稚園預かり保育に関する規則に基づき積算しており、適切な規模である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については、預かり保育に要するものであり、必要な者に限定されている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名		宜野座村					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	有機の里宜野座村確立事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-エ	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化		
事業内容	有機の里宜野座村を目指し、沖縄県環境保全型農業推進協議会の認証を受けたエコファーマーの増加並びにエコ農産物の販売量の拡大を図るため、減農薬や、減化学肥料による環境保全型農業を推進する。						
効果発現年度	■当年度      □後年度(      年度)						
実施方法	■直接実施      □委託      □補助      □負担      □その他(      )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	11,661	11,431	11,431	11,354	12,361
		(b)予算現額	11,321	11,431	11,306	11,252	12,260
		(c)増減額(b-a)	▲340	0	▲125	▲102	▲101
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A.計(b+d)	11,321	11,431	11,306	11,252	12,260
	B.執行済額		11,315	11,301	11,306	11,252	12,260
	うち交付金充当額		9,051	9,040	9,045	9,002	9,808
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.9%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		概ね計画どおりに事業を実施することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	①栽培指導回数(480回) ②生産販売目標(116t)	目標	( 480回 130トン )	( 480回 135トン )	( 480回 135トン )	( 480回 116トン )	
		実績	542回 116トン	554回 101トン	561回 69トン	574回 78トン	
減農薬、減化学肥料による環境保全型農業を推進する。詳細内容は以下の通り。 ・有機の里宜野座村推進協議会 ・アドバイザーの招聘 ・専門技術員の配置 ○農業栽培指導員1名 ○土壌分析・肥料設計・エコファーマー認定指導員1名 ○路販売戦略担当1名 ・エコ販売袋・シール等の購入		目標	(      )	(      )	( 協議会・部会開催 アドバイザー招聘 専門技術員配置 消耗品購入 )	( 協議会・部会開催 アドバイザー招聘 専門技術員配置 消耗品購入 )	
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>有機の里推進協議会を開催し、エコ農産物の生産販売拡大に向けた取り組みについて協議を行った。</li> <li>有機の里推進協議会にアドバイザー(大学農学部において講師経験のあるもの)を招聘し、有機の里推進に向けたアドバイスを受けた。</li> <li>農業栽培指導技術員により、農家に対し栽培指導(土づくり、害虫防除方法、台風対策等)を実施し安定した農産物の生産につなげた。</li> <li>土壌分析・肥料設計・エコファーマー認定指導員により、エコファーマー認定取得のための技術指導や認定申請書作成の支援を行った。</li> <li>販売戦略推進員が、大手スーパーや卸売業者と交渉し需要のある品目を把握するとともに販売先を確保した。また、農業栽培指導技術員や農家と連携して有望な栽培品目について生産体制を構築した。</li> <li>エコファーマーの新規認定者を確保するために、認定取得時に販売袋用エコマークラベルを1農家当たり20,000枚給付することになっているが、今年度は7名の新規認定者を確保することが出来、40,000枚の給付を行った。</li> <li>農業栽培指導技術員による有機農法及びエコファーマー認定の栽培指導回数の目標480回に対して、574回の指導を行うことが出来た。しかし、新型コロナの影響で、鳥ラッキョウ・トマト・葉野菜の注文が大幅に減少したことなどから販売目標の116トンを下回る78トンという結果となった。</li> </ul>					
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	エコ農産物販売目標	目標	(      )	( 130ト )	( 135ト )	( 116ト )	(      )
		実績		101ト	69ト	78ト	
	【参考指標】 エコファーマーの認定者数		目標	( 2名 )	( 3名 )	( 3名 )	(      )
			実績		2名	7名	
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>エコ農産物販売量については、前年度よりは9トン改善したが目標の116ト届かなかった。</li> <li>エコファーマーの認定者は7名であり、目標を達成することができた。</li> </ul>					

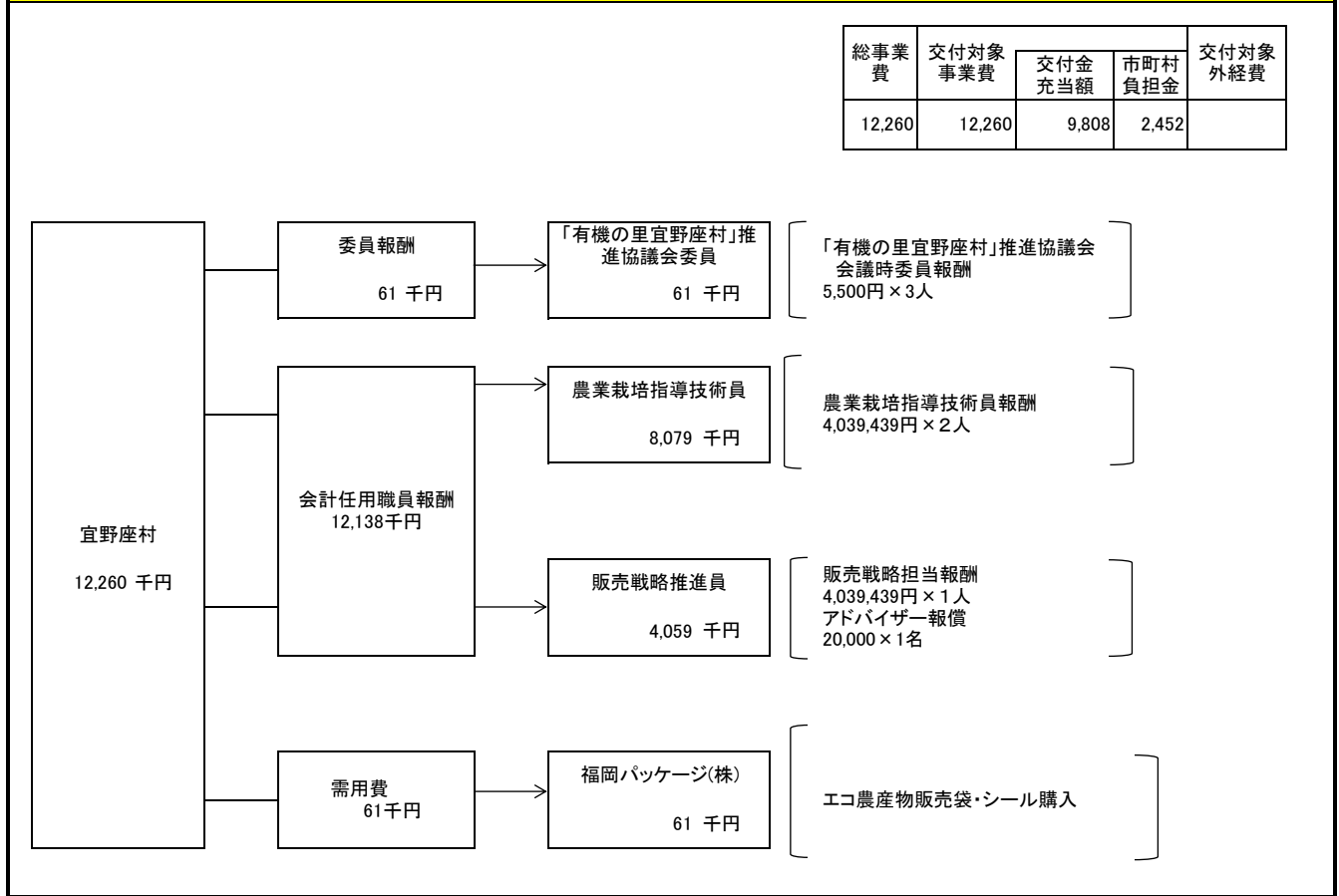
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(エコファーマーの認定者数) ・エコファーマー認証について3人の新規認定取得を目標とし、認定希望者や新規就農者等に認定取得の呼びかけをした結果、希望者は7人の新規認定を受けることが出来た。	(エコファーマーの認定者数) ・エコファーマー認定者数は令和3年度までに30名を目標としていたが、平成24年度から令和2年度までの実績は41名となっており、目標を達成している。今年度は継続して認定取得者を確保していきたい。
	(エコ農産物販売量) ・長雨や暖冬、新型コロナの影響により農産物販売量は78トンとなり約67%の達成率となった。特定の作物のみを生産している場合、天候等に異常が生じると多くの作物が収穫できず、生産量が極端に落ち込むことがある。	(エコ農産物販売量) ・夏野菜の品目を増やした結果、パパイア、冬瓜、ヘチマ、モーイは安定した収穫量で目標を達成している。 引き続き、天候等環境要因の影響を受けにくい夏野菜品目を増やし、安定的な販売量の確保に取り組む。

**今後の取り組み方針**

(エコファーマーの認定者数)  
・販売戦略担当が村の特産品加工直売センターに出向き、直売センターに出荷している生産農家にエコファーマー認証取得のメリットを周知し、認定取得希望者を募り栽培指導員と連携し、栽培指導と認定手続きの支援を行うことで認定取得につなげる。

(エコ農産物販売量)  
・作物の種類については、取引先より需要のある作物の情報を得たうえで、試験的な栽培を行いながら、栽培環境が適していると判断した場合に生産拡大を行っていく。また、需要も踏まえ天候等環境要因の影響を受けにくい夏野菜の栽培を継続・検証しながら天候の影響が小さくなるよう、取り扱い品目を増やして安定的な販売量の確保に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



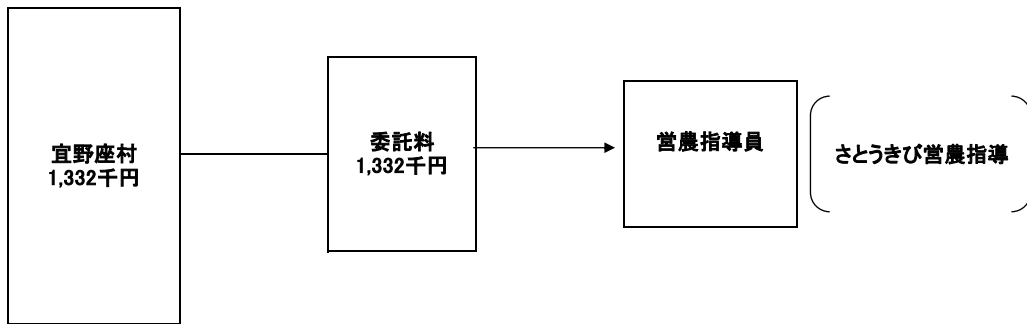
資金の 使途の 流れ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○協議会委員の選定については、農業関係機関の代表や地域の代表、行政機関の代表など多方面からの意見を集約できるよう選定しており、会計任用職員についても、営農指導の経験豊富な者・農業関連の専門的知識を有する者・販路開拓の経験を有するものを選定していることから妥当であったと考える。エコファーマーラベル製作については見積を徴収し最低見積業者に発注しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○委員報酬・会計任用職員報酬・農業経営アドバイザーの報償費の金額については宜野座村嘱託職員・報酬月額表に基づき積算しており、適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものであるか支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	さとうきび営農指導委託事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-エ		
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成28年～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定等の強化 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	本村の基幹作物であるさとうきびの増産を図るため、営農指導員による管理作業や営農指導を行う。また、担い手を確保し、講習会を実施する。						
効果発現年度	■当年度      □後年度(      年度)						
実施方法	□直接実施      ■委託      □補助      □負担      □その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,089	1,584	1,320	1,323	1,332
		(b)予算現額	973	1,281	1,320	1,323	1,332
		(c)増減額(b-a)	▲116	▲303	0	0	0
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A.計(b+d)	973	1,281	1,320	1,323	1,332
		B.執行済額	973	1,281	1,320	1,323	1,332
		うち交付金充当額	778	1,025	1,056	1,058	1,065
		次年度繰越額	-	-	-	-	-
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容は全て実施しており、適正であったと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	営農指導による管理作業の指導・担い手を確保し、営農指導や講習会を実施する。		目標	( 1名 )	( 1名 )	( 1名 )	( 1名 )
	・営農指導員配置1名		実績	1名	1名	1名	1名
			目標	(      )	(      )	(      )	(      )
		実績					
達成状況説明	営農指導員1名を配置し、栽培農家115名(延べ380名)、新規栽培農家1名に対し指導を行った。営農指導は、農家や新規農家が積極的に栽培方法を聞いたり、会議にも参加し助言するなど、本村のさとうきび栽培に重要な役割を担っている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	令和2年生産量 5,441t以上		目標	(      ) ( 5,264t )	( 5,264t )	( 5,441t )	(      )
			実績	5103t	4042t	4,976t	
			目標	(      ) (      )	(      )	(      )	(      )
			実績				
進捗状況説明	令和2年度生産量の実績値は4,976tとなり、前年度より生産量は伸びたが目標値に達することができなかった。同年8月に発生した台風の影響により葉片裂傷等の被害があり、その影響で生育に遅れが生じ生産量が思うように伸びなかった。結果として目標値に達することができなかった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>営農指導により、適期から作業が遅れる農家が少なくなったが、農業者の高齢化等で管理不足の圃場が見受けられるほか、離農・田作物転用により栽培面積が減少している。</p>	<p>高齢農家に対しては、営農指導員による指導を徹底する。肥培管理作業等の遅れがあるので、適宜管理を徹底させる。また、栽培面積減少の理由として田作物転作等があり、さとうきび農家の後継者育成の向上・生産の反収増を図る。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>直近5年間(H28年除)の生産量はいずれも増産傾向にある。令和2年度の生産量では5,000t目前に迫ってきており、営農指導の効果が着実に出てきている。令和3年度も適期管理作業等の指導を徹底し、さとうきび生産の反収増、担い手の育成・確保に取り組んでいく。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
1,332	1,332	1,065	267	



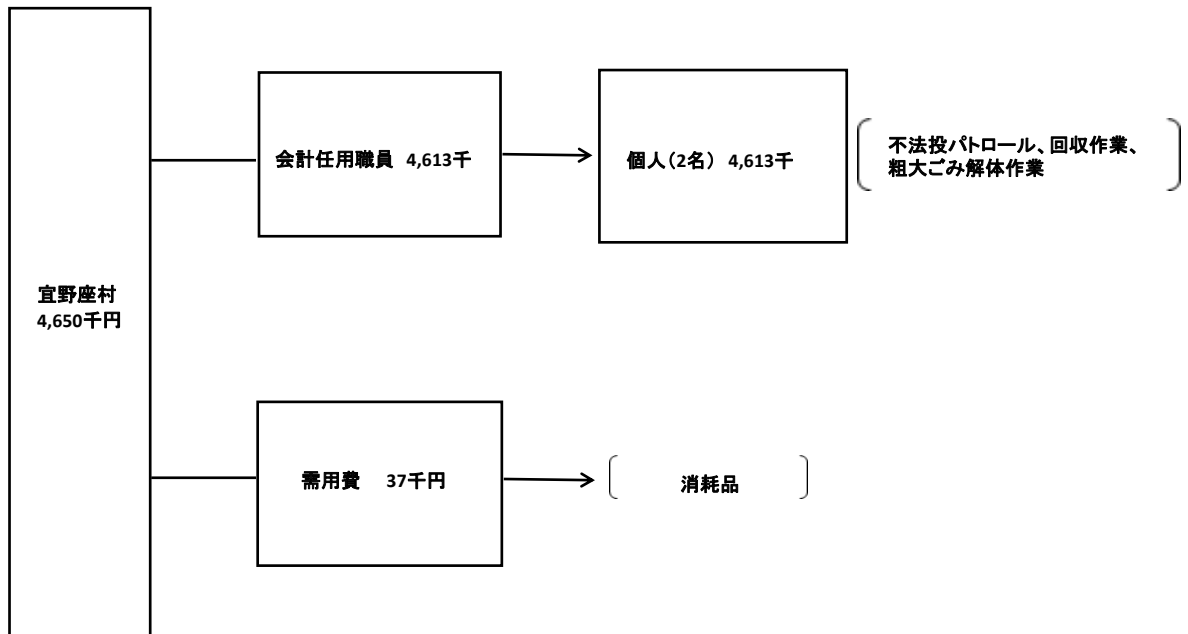
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託者はさとうきび栽培の知識や経験が豊富である個人と随意契約を行った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○宜野座村嘱託職員・報酬月額表及び賃金基準表を基に実施している。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の決定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	観光景観向上対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-イ		
担当部署名	村民生活課	事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	陸域・水辺環境の保全		
事業内容	観光地の景観向上を図るため、観光ルートに専属の監視員を配置し、観光地に放置された不法投棄物の撤去を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		4,040	4,040	4,040	4,039	4,697
			3,910	3,923	4,050	4,005	4,650
			▲ 130	▲ 117	10	▲ 34	▲ 47
			0	0	0	0	0
			3,910	3,923	4,050	4,005	4,650
	B. 執行済額 うち交付金充当額		3,910	3,923	4,049	4,005	4,650
			3,128	3,138	3,231	3,204	3,719
		次年度繰越額	-	-	-	-	-
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	予算の状況の説明	監視カメラ等のメンテナンス等が予定より少なかったため事業費を減額したが、当初予定した事業内容を計画通り実施できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	監視・作業員配置2名 ・監視カメラによる監視 ・観光ルートのパトロール ・放置された不法投棄物の撤去	目標	(    )	(    )	(    )	(    )	
		実績	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施	
		目標	(    )	(    )	(    )	(    )	
	実績						
	達成状況説明	監視・作業員配置2名を配置し、これまで不法投棄のあった場所の監視カメラによる監視、観光ルートのパトロール、放置された不法投棄物の撤去を実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	・観光地における不法投棄の減少10件/年以内	目標	(    )	( 10件/年 )	( 10件/年 )	( 10件/年 )	(    )
		実績		2件/年	0件/年	0件/年	
	【参考指標】 ・観光地ルートの景観向上(観光客から宜野座村の自然環境や景観向上・美しさ等をアンケート調査し、事業成果をとりまとめる。):満足度%	目標	(    )	( 70% )	( 70% )	( 70% )	(    )
		実績		90%	93%	未実施	
	進捗状況説明	観光地における不法投棄件数は1年間で0件であり、目標値を達成した。また、達成状況の客観的確認として、例年漢那ダムまつりにてアンケート調査を実施していたが、コロナによる祭りの中止により実施する事ができなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>広大な自然環境を生かした着地型観光を推進する本村は、これまで自然景観を損ねる不法投棄物が多かったが、本事業の実施により、不法投棄が2年間(令和1~2年度)0件である。</p> <p>令和2年度は、監視カメラが届かない場所への不法投棄対策として、ダミーカメラ、注意喚起の看板の設置、パトロールの回数を増やした。</p>	<p>令和2年度事業にかかわる留意点の検証結果を記載してください</p> <p>従来のパトロールのルート変更や時間帯を変える等改善を検討し、さらなる不法投棄の抑制を図る。</p> <p>また、区長さんや住民と連携を図り、不法投棄を見かけたらすぐに連絡するよう促し、村民全体で、不法投棄に対する意識啓発をおこなう。</p>
今後の取り組み方針		
<p>不法投棄パトロールのルート変更や時間帯を変動し、効率的に不法投棄を監視・抑制し、不法投棄の減少を図り、着地型観光の推進につなげる。また、村委囀の環境監視員だけでなく、その他地域住民の協力を得て、村民みんなで不法投棄防止に対する意識を高めるよう連携を図っていく。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
4,650	4,650	3,719	931	0



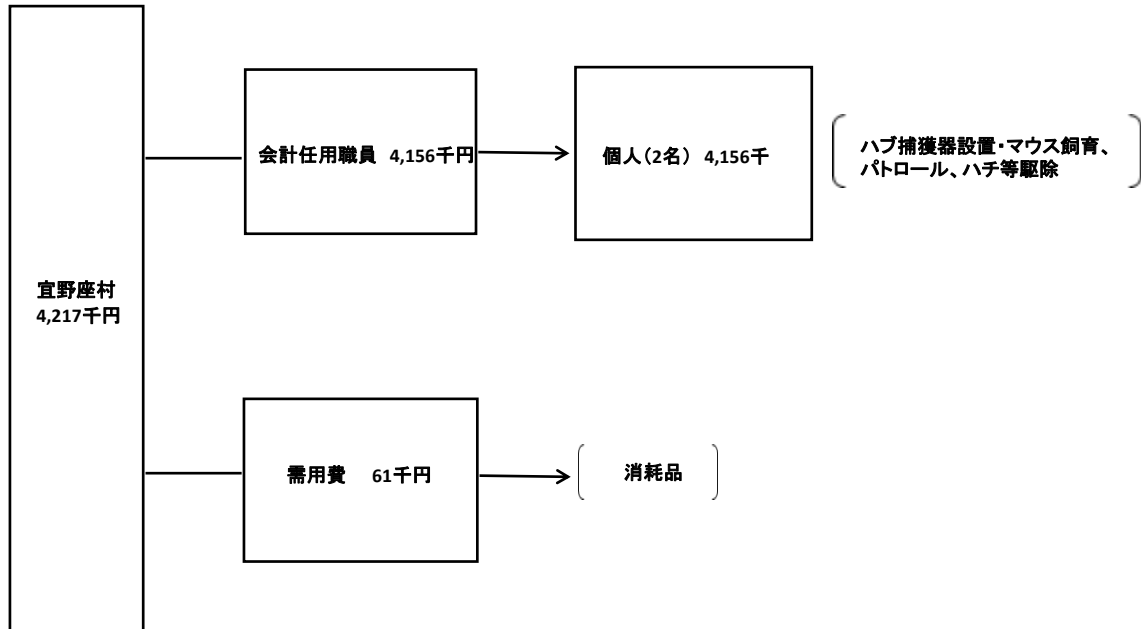
資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・監視・作業員は、村広報などにより応募し、村内の地形等を熟知している方を選定しており、妥当である。</p> <p>・予算規模は、村の予算編成資料(会計年度任用職員報酬月額表)により積算しており、適正な規模であったと考える。</p> <p>・費目・用途は事業目的に即しており、消耗品も必要最小限のもので、妥当であったと考える。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
<b>令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	4-②	危険生物駆除捕獲事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-イ		
担当部署名	村民生活課	事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	陸域・水辺環境の保全		
事業内容	観光客や修学旅行生等の安全を確保することを目的とし、咬傷事故等を未然に防ぐため、捕獲器の設置や観光地のパトロールを実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	3,730	3,750	3,750	3,749	4,277
		(b) 予算現額	3,258	3,570	3,750	3,637	4,217
		(c) 増減額(b-a)	▲ 472	▲ 180	0	▲ 112	▲ 60
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		3,258	3,570	3,750	3,637	4,217
	B. 執行済額		3,258	3,570	3,707	3,637	4,217
	うち交付金充当額		2,606	2,855	2,965	2,910	3,373
	次年度繰越額		—	—	—	—	—
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	98.9%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		ハブ捕獲機のメンテナンスが予定より少なかったため事業費を減額したが、当初予定した事業内容を計画通り実施できた。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	観光地パトロールの実施	目標	( 12回/月 )	( 12回/月 )	( 12回/月 )	( 12回/月 )	
		実績	12回/月	12回/月	12回/月	12回/月	
	ハブ捕獲器設置 ハチ等の捕獲・駆除体制の整備	目標	( 50箇所 )	( 50箇所 )	( 50箇所 )	( 50箇所 )	
実績		85箇所	200箇所	128箇所設置	140箇所設置		
達成状況説明	・観光地パトロールを1年間、月12回実施した。またパトロールと合わせてハチ等がないか確認を行った。 ・村境界付近140箇所にハブ捕獲器を設置し、捕獲・駆除を行った。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	観光地におけるハブの咬傷被害件数:0件	目標	(      )	( 0件 )	( 0件 )	( 0件 )	(      )
		実績	/	0件	1件	0件	/
	【参考指標】 観光地におけるハブ・ハチの苦情件数:0件	目標	(      )	( 0件 )	( 0件 )	( 0件 )	(      )
		実績	/	0件	0件	0件	/
進捗状況説明	今年度は、観光地付近において咬傷被害が0件であり、目標は達成となった。なお、観光地におけるハブ・ハチ等への苦情は0件であった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>捕獲については、目撃情報を基に設置場所を移動したことにより、ヒメハブ3匹、アカマタ4匹、台湾ハブ1匹が捕獲された。</p> <p>捕獲場所においては、住宅地域、郊外関係なく捕獲されているが、重点的に対策しているエリア外での目撃や咬傷被害、捕獲情報が多々あるため、エリアを拡大して、観光地へのハブ等の危険生物が侵入するのを防ぐ必要がある。</p>	<p>公共工事や地域清掃などにより区画の整備が行われるとハブ等の目撃情報があるため、適宜パトロールや捕獲器設置エリアを見直し、効果的に捕獲・駆除ができるよう取り組む。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>今後も目撃情報を元にパトロールや捕獲器設置エリアを適宜見直し、効果的に捕獲し継続的に駆除することにより、拡散防止・人体被害を未然に防ぎ、観光客や修学旅行生の安心・安全確保につなげる。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
4,217	4,217	3,373	844	0



資金の流 れ、費 目・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・作業員は、村広報などにより応募し、村内の地形等を熟知している方を選定しており、妥当である。</p> <p>・予算規模は、村の予算編成資料(会計年度任用職員報酬月額表)により積算しており、適正な規模であったと考える。</p> <p>・費目・用途は事業目的に即しており、消耗品も必要最小限のもので、妥当であったと考える。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名	宜野座村
------	------

**令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	5-①	宜野座村企業誘致推進事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-ア 情報通信関連産業の立地促進
担当部課名	企画課	事業実施(予定)年度 平成28~令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(2)

**事業内容**  
企業の誘致を図るため、県外ITイベントにおけるブースの出展や情報系企業の招聘セミナー等を実施する。

**効果発現年度**  
 当年度       後年度 (      年度)

**実施方法**  
 直接実施       委託       補助       負担       その他 (      )

		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	7,979	17,462	14,160	14,081	14,795
	(b) 予算現額	7,979	17,457	14,160	14,081	11,495	
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 5	0	0	▲ 3,300	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	7,979	17,457	14,160	14,081	11,495	
	B. 執行済額	7,972	17,457	14,160	14,081	11,495	
	うち交付金充当額	6,377	13,965	11,328	11,264	9,196	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	予算の状況の説明	新型コロナウイルスの影響により、計画変更に伴い予算を減額し事業を執行した。					

活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)	達成状況			
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
招聘セミナーの実施	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )
	実績	実施	実施	実施	実施
企業誘致ブースの出展	目標	(      )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )
	実績		実施	実施	実施
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関東、関西、中京、九州のIT関係の企業を対象として、令和3年3月に本村への招聘セミナーを実施した結果、6社から9名を本村へ招聘することが出来た。</li> <li>・10月の「日経xTECH EXPO 2020」へブース出展を計画していたが、新型コロナウイルスの影響によりイベントの縮小・オンライン化により来場者数減が見込まれたことから出展を見送った。</li> <li>・県内イベントの「JANOG 46 Meeting in OKINAWA」へ現地・オンラインの両方でブース出展した結果、現地では参加者が非常に少なかったが、オンラインでは1,915名の参加があり参加者に向けて施設PRを実施出来た。また、現地では参加者・出展社の方と今後の企業誘致に関して意見交換を行い、情報を得ることが出来た。</li> </ul>				

成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
		招聘セミナーの参加者	(      )	( 20名 )	( 20名 )	( 32名 )
	実績	/	20名	32名	9名	/
企業誘致ブース来場者	目標	(      )	( 200名 )	( 200名 )	( 250名 )	(      )
	実績	/	200名	200名	6名 ※現地	/
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・招聘セミナーについては申込者数は26名であったが、新型コロナ禍での開催となった為、感染対策として10名に制限して開催した。また、当日キャンセルが1名あったことから実績は9名となった。</li> <li>・企業誘致ブースについてはコロナ禍での開催となり、現地での参加者が非常に少ない中で名刺交換・意見交換となったが、オンラインでは3日間での総アクセス数が3,562件と多く、チャットでの質疑応答等も実施した。</li> </ul>					

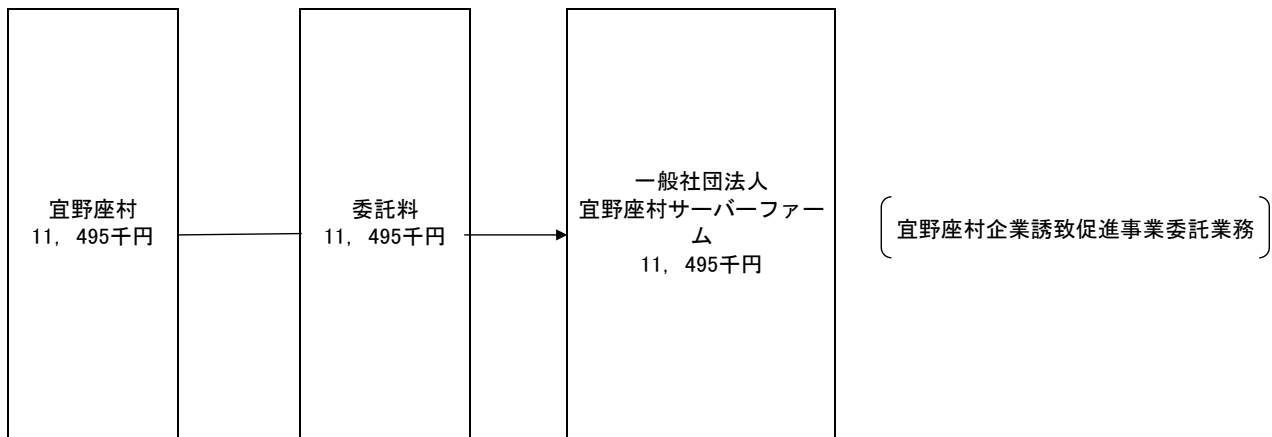
	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業誘致ブース来場者数、招聘セミナー参加者数ともに新型コロナウイルスの影響により達成することが出来なかったが、企業訪問や施設視察に関しても新型コロナウイルス影響下で厳しい状況の中、R2年度は1社の進出があった。</li> <li>R2年度より企業支援、人材確保のためWEB面接システムを継続して導入する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>近年、進出企業の高度化や業態変化に伴い、スモールオフィスや多様な働き方に対応した施設環境が求められている。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>村への進出企業獲得へ向けて、更なる広報普及活動を実施していく。</li> <li>入居先の施設では、現在、スモールオフィスに対応した環境整備を行っているところであり、10月に完了予定であることから効果的にPRに活用していく必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・企業誘致ブースへのイベント出展回数を1回から2回へ増やすほか、本事業による接触企業に対するフォローアップ営業を強化する。  
 ・WEB面接システムを活用することで県内外の優秀な人材確保を図るとともに、通勤の利便性や都市部へのアクセスについては本村の立地条件（本島内各地へのアクセス性は平均的に良い条件となっていること、公共交通による通勤は利便性が低いものの、交通量が少なく、渋滞によるストレスが少なく、比較的安全に通勤できること等）の強みを活かしつつ、働き方改革やコロナ禍によるテレワーク推進の状況も踏まえた戦略的な企業誘致に取り組む。  
 ・入居先の施設について、別事業で入居スペースの間仕切り工事を実施し、10月より利用が可能となる予定であることから広くPRIに活用する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
11,495	11,495	9,196	2,299	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、本村に特化した企業立地を推進する事業所となっており、その他事業所にはないため、委託事業所は妥当であったと考えている。 ・予算規模については、人件費、旅費の費用については宜野座村嘱託職員・報酬月額表や旅費規程内であるため妥当であるとする。 ・使途については事業目的達成の観点から必要なものであるか、額の確定時(検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	